

酒田市大火から 50 年

— 忘れない 猛火の記憶と復興までの歩み —

1976.10.29

新井田川沿いに燃え広がった炎 / 昭和 51 (1976) 年 10 月 30 日未明

令和 8 年 令和 9 年
10/3(土) ▶ 2/14(日)

休館日

月曜日 (祝日の場合は翌日)

年末年始 (令和 8 年 12 月 28 日 ~ 令和 9 年 1 月 4 日)

開館時間

午前 9 時 ~ 午後 4 時 30 分 (最終入館は午後 4 時まで)

入館無料

酒田市文化資料館光丘文庫
(酒田市総合文化センター内)

〒998-0034 山形県酒田市中央西町 2 番 59 号
TEL : 0234-22-0551 FAX : 0234-22-0612
mail : bunkashiryoukan@city.sakata.yamagata.jp



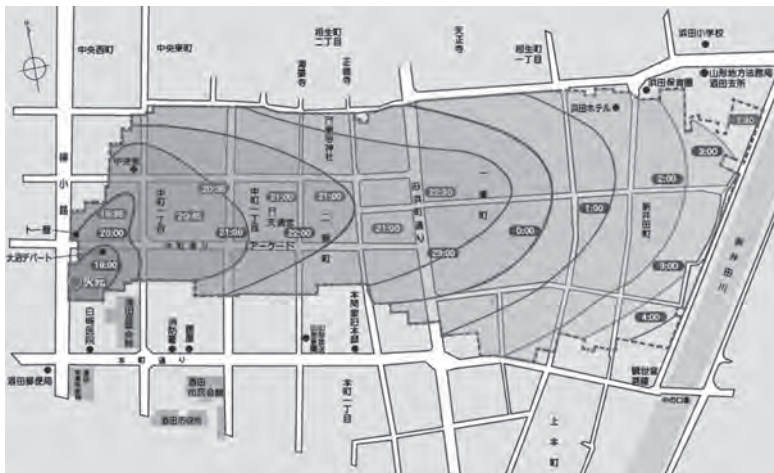
1976

酒田市大火 50 年特別企画Ⅱ
第 10 回企画展

10.29

酒田市大火から 50 年

— 忘れない 猛火の記憶と復興までの歩み —



酒田市大火焼失区域図（昭和 51 年当時の地図）



火元となった映画館



市街地での消火活動



焼け跡



仮設商店街

酒田市大火復興式典
（昭和 54 年 5 月 19 日）

防災の塔「はばたき」

昭和 51（1976）年 10 月 29 日の夕方 5 時 40 分頃、酒田市の中心市街地に甚大な被害を出した酒田市大火が発生しました。

はじめ 1 軒の映画館から上がった炎は、折からの強風に煽られ猛火となり、中心商店街を焼き、さらにその東側の住宅街に燃え広がりました。懸命な消火活動も、強風で放水は霧状に広がり、火の粉は次々と飛火し、消し止めることが困難でした。

最終的に新井田川が防ぎよ線となり、数十台のポンプ車が土手に集結し、一斉に直上放水を行いました。この水のカーテンが功を奏し、延焼を防ぐことに成功しました。そして 30 日午前 5 時、およそ 11 時間にわたって燃え続けた大火の鎮火が確認されました。

大火による被害は、死者 1 人、負傷者 1,003 人、焼失区域面積 22.5ha、被災世帯 1,023 世帯、焼損棟数 1,774 棟、り災者数 3,300 人、被害総額は 405 億円でした。

一夜にして酒田の中心部を一変させた大火のショックと悲しみに包まれながらも、直後から復興への歩みが始まりました。

二度と惨事を繰り返さない防災都市を目指し、道路の拡幅や公園の建設、耐火建築物の建設等、火災に強い街づくりが進められました。その過程では、全国各地からの温かい支援を頂いています。

2 年 6 か月後の昭和 54（1979）年 5 月 19 日、酒田市大火復興式典において大火からの復興が宣言されました。

今年、酒田市大火から 50 年という節目に改めてその被害の大きさや復興までの歩みを振り返り、その教訓を語り継ぎます。

担当調査員による
ギャラリートーク

令和 8 年 11 月 28 日（土）
13 時 30 分～

【場所】酒田市文化資料館光丘文庫
企画展示室（文化センター内）

【申込】不要 【費用】無料

【交通のご案内】

- JR 羽越線酒田駅より徒歩約 14 分
- 日本海東北自動車道 酒田 IC より車で約 12 分

酒田市文化資料館光丘文庫

〒998-0034 山形県酒田市中央西町 2 番 59 号
（酒田市総合文化センター内）

TEL：0234-22-0551 FAX：0234-22-0612

mail：bunkashiryokan@city.sakata.yamagata.jp

